

## 討論メモ

### 「『ハイドパーク覚書』と広島サミット」

令和 5年5月16日

森田晃司

1. 5月は、同月に予定されている広島サミットを控え、改めて原爆投下の真の目的に迫り、その上で日本人は原爆あるいは、核武装といかに向き合うべきかを考えました。

最初に、森田より、下記の主旨の説明があった。

①。ドイツに対抗して英米協力のもとに始まった原爆開発だったが、戦況の推移とともに、その投下目標が日本の軍事施設、さらに日本人へと変遷した経緯を確認した。

②。ハイドパーク覚書原文を読み、英米の投下目標が日本人であり、降伏しなければ日本人に対して繰り返し投下を続ける意思であったことを確認した。

③。日本人を投下目標にした背景には、人種差別撤廃を訴える有色人種の代表である日本人に対する偏見と恐怖があった蓋然性を確認した。

④。原爆投下は英米の戦後覇権を確実にし、また、日本に核武装させないという英米外交基本方針につながっている蓋然性を確認した。

2. 次いで、出席者8名による様々な角度からの意見交換を行い、下記のような意見が出されました。

- ・最初に原爆開発を提唱したアインシュタインだったが、日本が大好きだった彼は、日本に原爆が投下されたニュースをどんな思いで見たのだろうか。

- ・彼は早期に開発計画から離脱したが、投下目標が日本人になったことと関係しているのだろうか。

- ・早くにポツダム宣言を受けていれば、被害は少なくて済んだ。

- ・一步間違えば、大変なことになっていた。

- ・終戦直前まで、ソ連に仲介を頼むなど国際情勢がわかっていなかった。インテリジェンス能力が極端に落ちていた。

- ・日独とも原爆の研究は進んでいた。米国が開発競争に勝ち、それを使用したということだ。

- ・チャーチル・ルーズベルトの1943年1月のカサブランカ会談で、敗者に無条件降伏と責任者の処罰を求める確認をしたことが、戦争犠牲者を激増させた。現在のウクライナ戦争の終結を考える上でも参考にすべきだ。

- ・戦争は始めるのは簡単だが、終わらせるのは難しい。

- ・戦争はお題目ではなくなる。日本も核武装すべきだ。
  - ・核武装が最もコストパフォーマンスの良い戦備だ。
  - ・日本は核武装しなくても、するぞと宣言するだけでも良い。
  - ・日本が核武装宣言をしたら、米国はどう対応するのだろうか。
  - ・オバマ元大統領の広島訪問と核なき世界への演説はパフォーマンスだけで全く中身がなかったし、何らの行動にも結びつかなかった。
  - ・オバマは資料館を見たのだろうか。
  - ・当時の資料館長の話では、予定は大幅に短縮され、資料館には 10 分程度いたただけでオバマは関心を見せなかった。
- 
- ・戦後の日本は脱亜従米だ。独立国とは言えない。
  - ・戦後の日本は物言わぬ国になっている。
  - ・人種差別撤廃を唱えた国とは真逆だ。
- 
- ・ロシアはいざとなれば核使用も辞さない。
  - ・NATO に核戦争の覚悟がない限り、ロシアを負かすことはできない。
  - ・プーチンは狂気で、追い詰められれば核を使う。

・いや、プーチンは冷静な立派な指導者だと思うが、いざとなれば核を使ってでもロシアを守る覚悟だろう。

・プーチンは日露戦争前の山県有朋の心境ではないか、NATO の東方進出に脅威を覚えたはずだ。

・終戦時の日本は各地に三百万の兵隊を抱えていた。皇室を中心に武装解除を徹底させたのにはマッカーサーも感服した。

・終戦の在り方は勝者が決める。それが戦争だ。

・戦力差で賠償額が決まるので、徹底的に敗者を叩こうとする。

・過日の米韓首脳会談では韓国の核武装が取り上げられ、米国が原潜を韓国に派遣することになったが、一步前進だ。

・日本では、核武装の是非を論じることさえ忌避される。

・昔、核武装論をこっそり話したことがあるが、それに比べれば少しは良くなったか。

・戦前の日本は仁科博士などにより、かなりのレベルまで核開発は進んでいた。

・現在の日本の技術力をもってすれば、半年足らずで比較的安価に核武装できる  
ようだ。

・世の中、不穏な情勢になってきている。JAXA のロケットが失敗したが、原因  
がよくわからない。妨害電波の可能性もある。

・三菱航空機が米国での認証が取れずに終わったが、政治的要因とも考えられ  
る。

・戦前の日本は軍による暗殺が相次ぎ、政治家が黙ってしまった。また、現役軍  
人しか陸海軍大臣に成れない制度にしたため、軍部の横暴を許した。

・米国の高校生向け教科書を読んだことがあるが、原爆は犠牲者を減らし、人命  
を救うために落とされたと教えている。この理論だと、人命救助のためにまた、  
原爆が投下される恐れがある。

以上